

◆2023年 中学入試算数 講評 【開成】

【近年では最も取り組みやすいバランスの良い出題構成】

ここ数年、知識自体が差を分ける出題は少なく、無理のない良問で構成されています。中でも、今年は近年で最も取り組みやすい出題構成でした。

中学以降の知識を身につけていると露骨に有利に働く問題もなく、重箱の隅をつつくような知識を要求するような問題もなく、算数が得意な子に露骨に有利になる構成でもありませんでした。過負荷ではないこれまでの努力が報われる問題（大問1から3）や、算数の考える楽しさを味わってきた子が力を発揮する出題（大問4と5）と、全体的にバランスの良い出題だったかと筆者は捉えています。

大問1はまさに童話ウサギとカメの状況を料理して問題にしています。速さの問題は、短時間で問題の状況を正確に把握することにエネルギーを使います。童話のウサギとカメとほぼ同じ状況であることは、受験生にとって親しみやすく、すんなりと問題に向かうことができたのではないのでしょうか。

大問2、大問3は、比較的典型的な平面図形、立体図形の問題です。

大問4は試行錯誤しながら周期性を見る問題。うまく抽象化できると短時間で解くことができます。

大問5は、「漏れなくダブリなくできるだけ工夫して効率的に数える」という場合の数の本質に迫った問題で、それを自由自在に体得している人の考え方に導いていくような見事な出題でした。今後多くの塾のテキストや問題集に利用される問題かと思います。

（1）を間違えると続く残りの問題全て間違える構造でしたので、心理的に受験生に酷だったかとは思いますが、解き方を見て救済しているのでしょうか。

開成の入試は、今後の他の学校の入試問題にも多大な影響を与え、つまり中学受験をする小学生全体に影響を与えとも言えますが、改めてそういったトップ校としてふさわしい出題だったと思います。